

**表 29 人口 10 万人当り一般病床数及び高齢者人口 10 万人当り療養病床数**

(単位:床)

	一般病床数 病院+診療所	療養病床数 病院+診療所
青森医療圏	1,255	1,423
青森県	1,076	1,091
全国	821	1,448

資料：人口は総務省『平成 17 年国勢調査』より作成

：病床数は厚生労働省『平成 18 年医療施設調査』より作成

次に医師について人口 10 万人当りを見ると、186.2 人と全国平均 217.5 人の約 86% に過ぎず、県庁所在地ながらも深刻な医師不足に陥っている（表 30）。

**表 30 人口 10 万人当り医師数**

(単位:人)

医療圏	医師数
青森医療圏	186.2
青森県	178.3
全国	217.5

資料：人口は総務省『平成 17 年国勢調査』より作成

：医師数は厚生労働省『平成 18 年医師・歯科医師・薬剤師調査』より作成

青森二次医療圏では、青森県立中央病院（705 床。以下、県立病院）、青森市民病院（538 床。以下、市民病院）といった 2 大公的病院が存在し、これが地域の中核的役割を担っている。

入院患者の流出入をみると、流入患者は全国平均 23.9% に対して 18.6%、流出患者は全国平均 23.9% に対して 9.0%<sup>16</sup>と、極端に患者流出が少なく、独立色の強い医療圏と言ってよい。

### 3) 地域における慈恵会病院の位置づけ

先にも述べたとおり、青森二次医療圏における高度な急性期は、県立病院と市民病院の 2 つの公的病院が担っており、この 2 病院でほぼ完結している。救急もほとんど上記 2 病院が対応している。

このような中、慈恵会グループは早くから特養、老健、在宅介護事業に乗り出し、地域の保健・医療・福祉を支える体制作りに努めた。慈恵会病院自体としてはグループのこのような機能を活かしながら、一般病床が過剰であることもあり、従来は療養病床中心であった。しかし療養病床も削減政策が明確に打ち出される中、現院長が平成 15 年に就任して以来、院長の専門分野である整形外科とリハビリにも力を入れ、亜急性期以降を担う後方病院としての位置づけを明確に打ち出した。

そのため、二次救急以上は上記公的 2 病院に任せるが、一次救急は当院で看ること

<sup>16</sup> 厚生労働省『平成 17 年患者調査』